

水の 話

FujiClean NEWS

2026
Summer

NO.212

〔特集〕

駿河湾を「きれいな海」から 「豊かな海」へ

下水処理水を活用した貧栄養化解消への取り組み





駿河湾を「きれいな海」から 「豊かな海」へ

下水処理水を活用した貧栄養化解消への取り組み

名峰富士の麓に広がるのは、静岡県の町並みから続く雄大な駿河湾。

最深2,500メートルという日本一の深さを誇り、流れ込む黒潮や複雑な海底の地形により、豊富な海洋資源と多彩な生き物に恵まれた海の宝庫です。

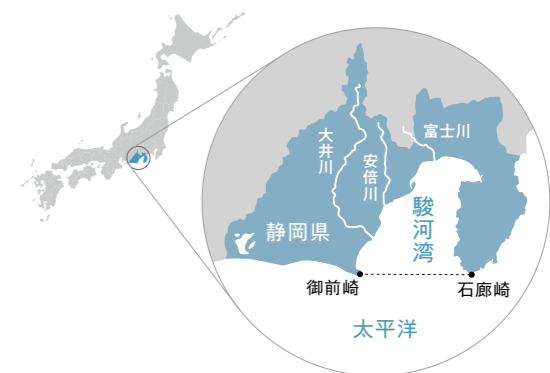
しかし近年、日本各地で問題となっている貧栄養化は、駿河湾も例外ではありません。

海をきれいにするだけでなく、生き物が育ちやすい「豊かな海」にするために、下水処理場の処理水を活用した静岡市の新たな取り組みを紹介します。

DATA

駿河湾
(面積/約2,300平方キロメートル 湾口幅/約56キロメートル 奥行き/約60キロメートル)

駿河湾は、静岡県の太平洋沿岸に位置し、伊豆半島南端の石廊崎と御前崎を結ぶラインよりも北側に位置する海域です。最深部は約2,500メートルもあり、相模湾、富山湾をしのぐ日本で最も深い湾です。湾の奥には清水港や焼津港などの重要港湾があり、カツオやマグロ漁の基地としても知られています。北側には富士山、西側には三保の松原や牧之原台地、東には伊豆半島ジオパークというように、風光明媚で特殊な景勝地に取り囲まれ、観光地として高い人気を誇っています。



最深部2,500メートル、日本一深い「駿河湾」の魅力。

日本で一番深く風光明媚な駿河湾

日本のほぼ中央に位置し、東西155キロメートルに広がる静岡県。北には富士山をはじめとする3,000メートル級の山々が並び、南には約500キロメートルも続く海岸線、さらには天竜川・富士川・安倍川・大井川などの大きな川や浜名湖もあり、豊かな自然に恵まれた地域です。そんな静岡県が日本一を誇るのが、世界遺産でもあり日本一の高さを誇る富士山と並び、日本で一番深い湾として知られている駿河湾です。富士山の南側に広がる駿河湾は、伊豆半島の南端の石廊崎と御前崎とを結んだ水域で、湾口約56キロメートル、奥行きが約60キロメートル、面積は約2,300平方キロメートルの広大な湾です。最深部は水深2,500メートルに達し、標高3,776メートルの富士山と比べるとその高低差は6,000メートル以上になります。日本一の駿河湾と富士山が織りなす美しい景観は、万葉集で山部赤人に詠まれたのをはじめ、葛飾北斎の「富嶽三十六景」、歌川広重の「東海道五十三次」などで描写されてきました。日本文化に大きな影響を与えてきた富士山は、2013(平成25)年にユネスコ世界文化遺産に登録。駿河湾もまた2016(平成28)年に「世界で最も美しい湾クラブ」にも加盟が認められ、世界中の人が富士の絶景を眺めに足を運んでいます。

プレートの衝突によって生まれた独特の地形

日本一深い駿河湾の誕生は、今から60万年前に遡ります。はるか南方数百キロメートル先の太平洋の海底に沈む火山群(現在の伊豆半島)がフィリピン海プレートの移動によって北上し、日本に衝突してできたのが駿河湾です。海底勾配が急な地形をしているため、海岸からわずか2キロメートルほどで水深500メートルに達します。中央部には、「駿河トラフ」と呼ばれる南北に伸びる溝が湾を二分し、海底の峡谷を形成。駿河トラフはフィリピン海プレートとユーラシアプレートの境界であり、その最深部は湾の入り口近くで水深

2,500メートルと日本一の深さになっています。そのため浅海から深海まで多様な生物が生息し、その数は日本に生息する魚類2,300種のうち4割以上にあたる約1,000種。古代魚ラブカなどの希少な深海生物も生息するなど、多様性に富んだ湾となっています。さらに駿河湾は、陸域から近いところに太平洋深層水、黒潮系海洋深層水、亜寒帯系海洋深層水の3つの深層水が存在。太陽光がほとんど届かない深海は、表層の海水にはない「高栄養性」「清浄性」「低温安定性」という3つの特徴を持っていることから、多様な生物を育てるなどたくさんの恵みを与えています。

水産業を支える駿河湾の豊かな恵み

駿河湾では、古くから沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業が盛んに行われてきました。沖合には黒潮が流れ込み、沿岸から沖合へと広がる海域は、黒潮の恵みを受ける魚の宝庫です。沖縄やフィリピンなど南方に棲む魚の卵や稚魚も運ばれて、生産性の高い漁場が形成されています。湾の中央部付近には、「石花海」と呼ばれる水深100メートル未満の広大な浅瀬が「海の丘」ようになっており、プランクトンが豊富な天然の漁場となっています。さらに富士山に降った雨や雪が数十年をかけてミネラルがたっぷり含まれた湧き水となり、富士川・狩野川などの河川をつたって駿河湾に注ぎ込んでいるため、魚たちに栄養を与えています。

現在、駿河湾内には大小24の漁港が立地しており、イワシの稚魚であるシラスやアジ、サバ、イワシ、カツオ、タチウオなどが水揚げされています。他にも深海に生息するタカアシガニや、大井川漁港、由比港では日本で唯一となるサクラエビ漁が行われることでも有名です。また都市圏から近く交通網が整った静岡県は水産加工業も盛んなため、焼津におけるカツオ、サバの節製品、西駿河湾から遠州灘にかけてのシラス干し、焼津や周辺地域を中心とした練り製品などの特産品も多く、全国有数の水産県となっています。

■駿河湾ができるまで



1. 急勾配で流下するためおびただしい量の砂礫を流出する安倍川
2. 焼津漁港で水揚げされた新鮮な海の幸から加工品までがそろった「焼津さかなセンター」
<https://www.sakana-center.com/>
- 3-4. 高校校舎をリノベーションした全国でも珍しい県立の自然系博物館「ふじのくに地球環境史ミュージアム」。静岡の自然や生物に関する標本、資料が多数展示されています
<https://www.fujimu100.jp/>
5. 静岡県の中央に位置する焼津漁港は、カツオやマグロを主とする遠洋漁業の基地となっています

日本の海を取り巻く「貧栄養化問題」。

栄養が乏しくなった海

漁場としてたいへん恵まれた駿河湾ですが、近年、シラスやサクラエビなどの漁獲量の減少が問題視され始めています。これらの要因は、地球温暖化による海水温の上昇や乱獲による資源減少なども考えられますが、近年特に注目を集めているのが「貧栄養化問題」です。貧栄養化とは、水中に溶けている栄養塩類^{*1}が少なすぎるために生物の生産性が低くなる現象を言います。1960~1970年代の高度経済成長期、日本では都市化や工業化が進み、生活排水や工場排水などに含まれる窒素やリンが湖沼や海、河川などの水域に流れ込むことで栄養塩類の濃度が異常に高まる「富栄養化」が急速に進行しました。富栄養化が進むと、それを栄養源とする植物プランクトンやアオコなどの藻類が大量発生し、海では赤潮が頻繁に発生。有害赤潮や海底付近の酸素不足などによって貝や魚が大量死するなど、深刻な影響を及ぼしました。こうした被害は漁業・養殖業だけではなく、悪臭や衛生景観的にも大きな社会問題へと発展しています。この状況を受け、日本では1971(昭和46)年に施行された「水質汚濁防止法」など、水質保全に関するさまざまな法整備が進められ、工場や事業所の排水に含まれる有害物質の規制強化や下水処理施設の高度化などによって、川や海の水質は大きく改善されました。しかしその一方で、海中の栄養塩類が不足するようになり、海の豊かさが失われつつあることが新たな課題となってきました。

^{*1} 水中でプランクトンや藻類が成長するために必要な窒素やリンなどの化合物

「貧栄養化」による水産業への影響

一見、環境負荷が軽減されれば、水もきれいになり水生生物にとってもいいように思えます。しかし、きれいにしすぎたことで植物性プランクトンの成長や増殖に必要な栄養分であるアンモニア性窒素までもが取り除かれ、「貧栄養化」を引き起こしてしまいました。東京湾や伊勢湾、瀬戸内海などの閉鎖性水域ではとくにその影響を受けやすいため、漁業や養殖に大きな打撃を及ぼすことに。例えば日本トップレベルの海苔の生産地として知られる兵庫県では、2000(平成12)年頃から瀬戸内海側で養殖される海苔が本来の黒色にならない「色落ち」が発生しています。その原因が「貧栄養化」にあると分かると、瀬戸内海の漁師たちが中心となって、陸地から海に栄養を流すためのさまざまな活動を始めました。溜池の底に溜まった泥をかき出す「かいぼり」や海底を畑のように耕す「海底耕耘」、豊かな森づくりなどを展開。さらに2008(平成20)年頃から試験的に下水処理場や工場などから放出される排水をコントロールする取り組みをスタートし、2021(令和3)年に「瀬戸内海環境保全特別措置法」が改正されると、特定の海域に対して排水中の栄養塩類を適切に増やして海に流すことが可能になりました。同法に基づき策定された「栄養塩類管理計画」のもと、栄養塩類、特に全窒素の供給量の増加を目指しています。一部の海ではこの取り組みの効果が見え始めており、一級河川・加古川の河口付近の海で養殖する海苔の色付きがよくなったり、ワカメが生えるようになったりといった報告が届いています。



3. 中島浄化センターの下水処理施設。屋上部には人工芝の多目的スポーツグラウンドを設置しています
4. 2017年に完成した静岡県初の下水汚泥をエネルギー資源へリサイクルする汚泥燃料化施設

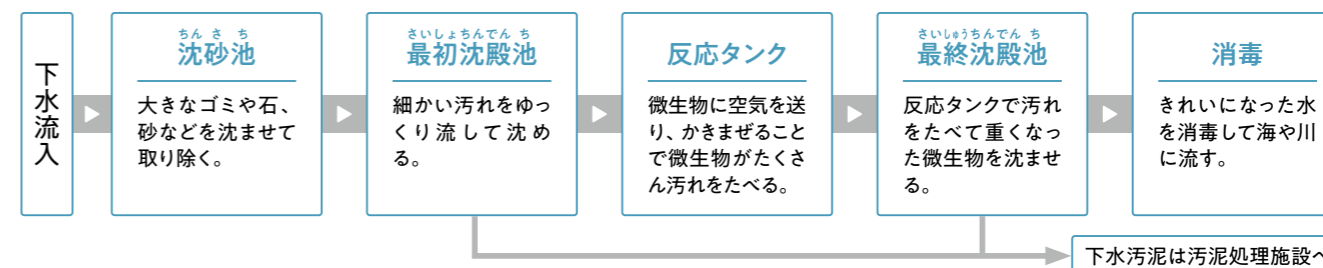


下水処理法を見直し、「豊かな海」を目指す静岡市。

海に流れ込みづらくなった陸の栄養

兵庫県の事例をはじめ、現在では下水処理場の処理水を活用して自然環境を改善させる取り組みが全国的に注目を集めています。国交省は2023(令和5)年に「栄養塩類の能動的運転管理の効果的な実施に向けたガイドライン(案)」を策定し、生物多様性の確保・水産資源の持続的な利用の観点から、「きれい」だけでなく「豊かな」水環境を求めるニーズの高まりを示しています。そして、この取り組みを初めて静岡県内で取り入れたのが、駿河湾を擁する静岡市です。静岡県内で水揚げされる「シラス」の漁獲量は、2015(平成27)年には8,549トンありましたが2024(令和6)年には2,096トンとおよそ4分の1まで減少。その要因として市が目にしたのが、川から海に流れる栄養分でした。駿河湾に流れ込む安倍川は、その源を大谷嶺に発する大変水質の良い清流として知られており、2008(平成20)年には環境省の「平成の名水百選」に選ばれています。しかし日本有数の急流土砂河川で、土砂や砂利が多く堆積することで川床があがり、表流水の多くが地下に浸透。流域から流れてきた栄養分が地中でろ過されたような形になり、直接海に流れにくくなっているのです。さらにこの数十年の間に下水道の整備が進み、栄養分を含む生活排水などの流れ込みも減っていることから、海に流れ込む栄養分はさらに減少する状況が生まれています。

中島浄化センターにおける浄化の流れ



処理水の送風量を調整し栄養塩を増加

こうした状況を受け、静岡県内で最大規模を誇り安倍川の河口に位置する中島浄化センターでは、栄養分を多く排出するための運転方法の検討を始めました。下水処理場では反応タンク内の微生物によって汚れを分解していますが、これまで中島浄化センターでは、周辺の工場排水等の影響などによって一時的に流入する下水の負荷が高くなった(汚れ具合がひどくなった)時には、微生物の働きが活性化するように反応タンクに送り込む空気(酸素)の量を増やしていました。しかし今回の検証を通じて、ある程度の汚れであれば送風量を増やさなくてもBOD^{*2}などの排水基準は十分に守られており、アンモニア性窒素を多く排出できることがわかりました。これにより、水質汚濁防止法などによる水質規制に対し適切な水質管理を行いながら、栄養塩類の一つであるアンモニア性窒素を増加させることができると確認し、運用へと漕ぎ着けることができたのです。

^{*2} 水の汚れの度合いを示す指標

運転方法の変更による放流水の変化

	高負荷流入なし 通常処理時	高負荷流入時	
		変更前	変更後
BOD	1~3mg/L	2~5mg/L	3~6mg/L
アンモニア性窒素	ほぼ0	3~7mg/L	12mg/L程度

栄養量の違いによる海の水色の比較



青く澄んだ海

栄養不足。エサとなるプランクトンが不足し、生き物や魚が増えにくく、育ちにくい。



少し緑色の海

栄養量がちょうど良く、エサとなるプランクトンが十分にあるので、生き物や魚が多い。



茶色く濁った海

栄養が多すぎ。大量発生したプランクトンが赤潮やヘドロとなり、腐ると悪臭などの被害が出る。



1. 栄養不足による養殖海苔の色落ち

2. 池の水を抜き泥をかき出す「かいぼり」の様子

写真提供：兵庫県漁業協同組合連合会



1. 歌川広重が描いたことで知られる薩埵峠から見る富士山と駿河湾の絶景
 2. 用宗漁港で水揚げされる「用宗のシラス」は駿河名物としても人気
 3. 駿河湾で獲れたたくさんの海の幸が市場に並びます



日本で唯一、駿河湾でのみ漁獲される 稀有な深海生物「サクラエビ」

透明感のある美しい桜色で海のルビーとも称されるサクラエビ。体長は4~5センチと小さいながらも、やさしい甘みと香ばしい旨味が人気です。そんなサクラエビは、実は深海生物の一つで、昼間は比較的深い水深に生息し、夜になると餌となるプランクトンを追って水深20~60メートルまで浮遊してくる習性があります。サクラエビ漁はこの習性を利用して、夜間に行われています。漁は、産卵や冬の漁獲しにくい時期を避け、3月下旬~6月上旬までの春と、10月下旬~12月下旬までの秋の2期で行っており、それ以外の時期は保護のために休漁となります。東京湾口や相模湾奥、遠州灘、五島列島などにも生息していますが、漁が成立するほどの資源量はなく、漁業許可を受けているのは日本国内では駿河湾にある大井川港と由比港のみ。国内の水揚げのほぼ100%が駿河湾産となります。日本以外では、台湾周辺海域でも漁獲されており、同種の干しエビなどが日本にも多く輸入されています。

なぜ、駿河湾でサクラエビが獲れるのでしょうか。その要因の一つは駿河湾の急峻な地形にあります。岸の先で崖のように深くなっている場所が所々にあり、岸と深海環境が近いことで、

本来深海生物であるサクラエビの産卵や生息に適した環境ができていていると考えられます。また多くの河川や海底湧水などがミネラルなどを豊富に含んだ栄養たっぷりの水をもたらしていることも、サクラエビの成長を助けているのです。駿河湾の類まれな環境が育てるサクラエビは、いわば駿河湾からの贈り物だと言えるかもしれません。

元々サクラエビ漁は、1894(明治27)年、今から130年以上前に、現在の由比町にあたる今宿で始まりました。アジの夜曳漁にむかった漁師が網を浮かせる浮樽を忘れてしまい、仕方なく浮樽なしで網をおろして漁をしたところ、網にかかっていたのが大量のサクラエビでした。この偶然の発見によって、サクラエビを効率的にとる漁法が出来上がり、駿河湾での漁が盛んになっていき県の特産品となりました。その後、度重なる不漁などを経験したことで、サクラエビは大切な資源であるという意識が高まっていき、今では、地元の漁業関係者の方々が独自の管理制度を設けたり、漁獲量を調整したりしながらサクラエビを守り続けています。多くの方々の努力のおかげで、私たちの食卓へと貴重な味覚が届けられているのです。

豊かな海を保ち続けるために

2025(令和7)年6月16日より、中島浄化センターでは新たな運転方法を開始させました。アンモニア性窒素の供給量は、これまでの運転方法と比較すると、年間で約50トン増やすことができると考えられています。その量は、広い駿河湾からすれば微々たるものかもしれませんが、まずはできることを始めていくことで「豊かな海」の実現への一歩になるのではと、多くの漁業関係者から期待が寄せられています。また今回は、設備面の新たな投資をすることなく送風量を増やさない運転方法に変えたことで、電気代も年間で約500万円削減ができ、CO₂排出量の削減にもつながりました。さらに2017(平成29)年、中島浄化センターでは発生する下水汚泥をエネルギー資源化する汚泥燃料化施設を設け、下水汚泥の有効利用およびCO₂排出量の削減にも取り組ん

でいます。静岡市では、今後さらに、周辺の浄化センターでも運転方法の転換を予定しており、「豊かな海」への取り組みは少しずつ広がりをみせています。

高度経済成長期に発生した富栄養化問題は、法律をはじめ下水処理技術の向上などによって改善傾向へと動きまわりました。しかし新たに貧栄養化という問題が発生し、改めて自然環境をコントロールすることの難しさが浮き彫りになりました。絶妙なバランスで成り立つ自然は、一旦そのバランスを壊してしまうと取り戻すことは容易ではありません。水質の改善だけでなく、流域全体の水環境や生態系との調和まで見据えた総合的な水環境管理の重要性がいっそう高まっています。森、川、海、街、人、魚、すべてのつながりを意識し、自然の変化に真摯に向き合い続けることが、豊かな未来をつくることにもつながっていくのでしょうか。

取材協力・撮影協力・資料提供

- 静岡市上下水道局下水道部下水道施設課(中島浄化センター)
- 兵庫県漁業協同組合連合会

参考資料

- 海と湖の貧栄養化問題 水清ければ魚棲まず(山本 民次・花里 孝幸 編/大久保 卓也・一瀬 諭・樽谷 賢治・反田 貴・堀 正和・児玉 真史・鷲尾 圭司 著/株式会社 地人書館 発行)
- 駿河湾学(村山 司 著/東海大学出版部 発行)
- 新版 駿河湾の自然(東海大学海洋学部 編/静岡新聞社 発行)
- 静岡県 <https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kowan/1040846/index.html>
- 中島浄化センター パンフレット



大井川漁港

NEWS 「健康経営優良法人 2026(中小規模法人部門)」の認定を取得しました。

このたびフジクリーンは、経済産業省の「健康経営優良法人認定制度」において「健康経営優良法人 2026(中小規模法人部門)」の認定を取得しました。

社員一人ひとりが安心して生き活きと働ける職場環境の整備を目的に、健康の保持・増進に関する取り組みを推進してきたことが評価され、今回の認定取得に至りました。今後も「社員の健康は会社の成長を支える経営基盤である」という考えのもと、社員の健康の保持・増進と働きがいの向上に向けた健康経営を一層推進してまいります。



健康の保持・増進に関する取り組み

ワークライフバランスの推進

- ・ノー残業デーの設定
- ・テレワーク、時差出勤の実施
- ・リフレッシュ休暇の活用
- ・時間単位年休制度の導入
- ・フレックス制度の導入

職場の活性化

- ・社内報の配信
- ・社内SNSの積極的な利用
- ・部署横断型の業務体験制度
- ・業務時間外のグループ活動への費用補助

仕事と治療の両立支援

- ・社外相談窓口の整備
- ・不妊治療両立支援の構築

健診・検査の受診支援

- ・定期健康診断の受診勧奨
- ・婦人科検診の費用補助
- ・健康診断二次検査の費用補助

メンタルヘルス不調者への対応

- ・ストレスチェックの実施
- ・社外相談窓口の整備
- ・セルフケアを補助するサーベイの実施

感染症予防に関する取り組み

- ・季節性インフルエンザ予防接種の費用補助
- ・海外渡航者に対する予防接種

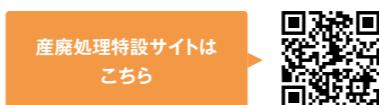
お知らせ CB型の紹介動画を公開しました。

2026年4月1日に新発売した小型合併浄化槽「CB型」の紹介動画を、フジクリーンWebサイトと公式YouTubeチャンネルにて公開しました。業界最浅(2026年4月時点)の全高浅型設計により、施工性や設計自由度が向上したことなど、製品特長を分かりやすく紹介しています。ぜひご視聴ください。



お知らせ 産廃処理特設サイトを公開しました。

産廃処理に関する情報をより詳しくお届けするため、特設サイトを公開しました。フジクリーンのトータルソリューションをはじめ全国規模の施工・メンテナンスネットワーク、安定した品質と短納期などの強みなどをご確認いただけます。また豊富な納入実績を掲載しており、排水種別や排水量を入力して条件を絞り込むことも可能です。産廃処理でお困りの際は、ぜひ本サイトをご活用ください。



働きがいの向上紹介 21

業務時間外のグループ活動を補助する制度「フジクラブ」。



社員の交流促進や健康増進を目的に、業務時間外に実施されるグループ活動の費用を一部補助する制度「フジクラブ」を導入しています。部署や拠点を越えた交流の場として、社員が自主的に企画するスポーツや文化、ボランティア活動などを支援します。

幹事の社員が社内プラットフォームで参加者を募り、登山やスポーツ観戦、スノーボード、読書会など多彩なイベントを企画。参加者からは「遠足のようなワクワク感があり楽しかった」「運動不足の解消になった」「社員のプライベートな一面が分かり、職場でも話やすくなった」といった声が寄せられています。今後も、フジクラブを通じて社員同士の交流の輪が広がることを期待しています。

対象となる活動例

- 健康の保持・増進を目的としたスポーツ活動
- リスキリングや教養習得を目的とした文化活動
- 地域貢献につながるボランティア活動



メディア BS12トゥエルビ、サンテレビ「賢者の選択 Shapers」でフジクリーンが特集されました。

2026年6月7日(日)放送のBS12トゥエルビ、6月8日(月)放送のサンテレビ(兵庫県・大阪府全域で放送)「賢者の選択 Shapers」において、フジクリーンが特集されました。当社会長・渡辺が、フジクリーンの歩みや「美しい水を守る」という理念に込めた想いなどを語りました。番組内のコーナー「未来の種」では、浄化槽の機能に不可欠な微生物に着目。当社の研究・技術が「見えない力」をどう活かしているかを紹介しました。

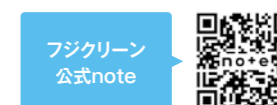


TOPICS

フジクリーン公式Instagramとnoteを開設しました。

フジクリーンのことをもっと知っていただくために、公式Instagramとnoteのアカウントを開設しました。浄化槽や排水処理に関する情報から社内イベントの様子まで、水処理業界やフジクリーンに関するさまざまな情報を発信していきます。アカウントのフォローと「いいね!」をお待ちしております!

なお、水の話公式Instagramは、2026年6月15日をもって新規投稿を終了いたしました。これまでご覧いただき、ありがとうございました。アカウント自体は残しておりますので、過去の投稿は引き続きお楽しみいただけます。



もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

〈愛知県春日井市〉
セーブ ジ オセア
Save the Ocean
株式会社



代表取締役
東本 猛 さん

エシカルな洗剤とランドリーで、 洗濯で海を汚す時代を終わらせたい。



プラスチックを削減
するため、量り売り
も行っていきます



FSC認証木材を使用した自然の香り溢れるコインランドリー


愛知県春日井市にある「森と海をまもるコインランドリー」は、印象的な名前だけでなく、まるで海の家のようなやさしい佇まいが目を引きます。それもそのはず、日本で初めて店舗としてFSC認証※1を取得したコインランドリーなのです。運営元である株式会社勝川ランドリーは70年以上の歴史をもつ老舗クリーニング店で、現在はクリーニング店とコインランドリー店の7店舗を経営。代表取締役の東本氏は、奥様の実家の家業を継承し、この業界に飛び込みました。しかし洗濯後、排水溝に残る汚れを見るにつれ、洗濯が環境に与える影響に危機感を抱くように。ついには環境と人に優しい洗剤を作ろうと研究を始め、2021(令和3)年に「Save the Ocean株式会社」を設立。専門研究所と約6年をかけて「海をまもる洗剤wellwash(ウエルウォッシュ)」を開発しました。

従来の洗濯洗剤は、界面活性剤で汚れを衣類から浮かせるため、汚れは水に移動するだけでした。ウェ

ルウォッシュは衣類の汚れをナノレベルまで分散させるため、たとえ下水処理場で分解できなかったとしても微生物による分解が進みやすい成分設計で、OECD基準※2の生分解性試験では28日後に89.2%の分解性が確認されています。あわせて高い洗浄力や肌への安全性、価格にもこだわりました。その評判は広がり、現在は自社店舗だけでなく全国のクリーニング店やライフスタイル店など約700店舗で取り扱われています。さらに東本氏は、より海や川をきれいにするために、源である森にも注目。建物の主要部に岐阜県東白川村のFSC認証木材を使用し、同じ志をもつ株式会社エコ建築考房の設計で2022(令和4)年に「森と海をまもるコインランドリー」を完成させました。最近ではSNSや実演販売などを通じて、洗濯が与える環境負荷や、服を長く着ることの大切さなどを発信。共感の輪を広げていくことで、「洗濯で海を汚す時代を終わらせる」という思いを叶えていきます。

※1 環境、社会、経済の面で適切に管理された森林から生産された製品(木材・紙)などに付与される国際的な認証制度


※2 化学物質やその混合物の安全性を評価するための国際的に合意された試験方法

 **FujiClean** フジクリーン株式会社

本社 名古屋市中区区内一丁目16番15号 名古屋シミズ富国生命ビル14階 〒460-0002 TEL(052)733-0325
<https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	群馬営業所 (027)327-5611	広島営業所 (082)843-3315
東北支店 (022)212-3339	埼玉営業所 (048)660-5050	高松営業所 (087)869-8680
東京支店 (03)3288-4512	千葉営業所 (043)206-5171	松山営業所 (089)967-6123
名古屋支店 (052)249-5100	新潟営業所 (025)271-8668	高知営業所 (088)803-1520
大阪支店 (06)6396-6166	山梨営業所 (055)275-9300	佐賀営業所 (0952)31-9151
福岡支店 (092)441-0222	松本営業所 (0263)27-2080	熊本営業所 (096)388-3571
盛岡営業所 (019)604-2527	岐阜営業所 (058)271-1131	大分営業所 (097)558-5135
郡山営業所 (024)937-0800	静岡営業所 (054)286-4145	宮崎営業所 (0985)32-3064
茨城営業所 (029)851-0031	三重営業所 (059)213-5520	鹿児島営業所 (099)257-3501
宇都宮営業所 (028)625-4650	和歌山営業所 (073)422-3634	沖縄営業所 (098)862-9533



 フジクリーン
公式Instagram

Follow Me



FUJICLEAN_OFFICIAL

